

# 協議会ニュース

50号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 1994.7



## 春 の 小 川

♪春の小川はさらさらゆくよ，岸のすみれやれんげの花に，  
においやさしく色うつくしく，咲いているねとささやきながら♪

こんな情景を随分あちらこちらとたずねもとめてみたが，どこもかしこも岸辺がブロックで改修されてしまっていて，広々とした田園風景の中にはもう護岸工事をしていない小川はなくなってしまったのだろうかとさえ思えるほどであった。

(次ページの本文に続く)

## ★ 表 紙 の 絵 ★

結局、山際に近いところに、自然の岸辺の小川があったものの、自然の岸辺には、ササやノイバラ、ヨシなどの植物が生い茂っていて、のどかさといった風情の面からは、もうひとつといったところ。

春の小川の岸辺も、手間ひまをかけておこなわれていた日本の農業を象徴するものであったわけであるが、岸辺がブロックで固められてしまったのは、大雨で水かさが増したとき、ほんの少しでも岸辺が削り取られることすら許されない我が国の土地の狭さのせいなのだろう。

全国春の小川百選でも企画して、残された春の小川の保存運動を進める必要があるのかも知れない。

松林 幸雄

### 簡単なウッドクラフト

(13)

名古屋支部 椿 幹雄

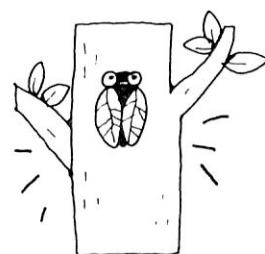
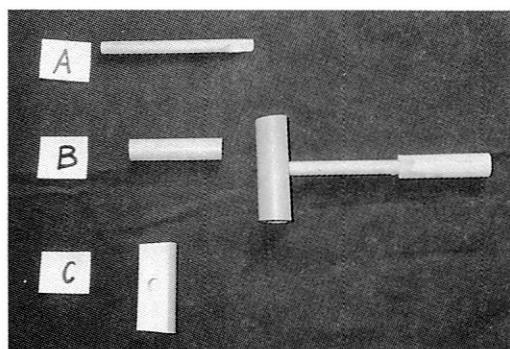
ササやタケを利用してセミ笛を作つてみませんか？

#### I. 準備品（セミ笛1個分）

- 1) ササかタケの枯れ葉1枚（Aの吹き口弁）
- 2) A（直径5mm・長さ70mm）
- 3) B（直径5mm余・長さ30mm）
- 4) C（直径20mm・長さ50mm）
- 5) ハサミ
- 6) カッターナイフ
- 7) 鋸
- 8) 5mmドリル

#### II. 作り方

- 1) Aの先をナイフで50度前後の角度で切る。
- 2) Aの削り元をナイフで3mm程切り込む。
- 3) 削り口の大きさに枯れ葉をハサミで切り、削り元に差し込み、弁をつくる。
- 4) AにBを差し込む。
- 5) Cに5mmドリルで穴をあけ、Aの先を差し込む。





# 機関誌50号まで

佐藤国彦（運営部会長）

協議会は昭和56年に発足して、今年で14年目になります。機関誌もその間、年数回発行して、ようやく50号を数えることとなりました。そこで、今までの機関誌の歴史？を振り返ってみたいと思います。

## 1 機関誌の初期

機関誌の創刊号は、協議会の発足後2年目の昭和57年8月でした。この創刊号と続く2号は、手書きの機関誌でしたが、昭和58年4月の3号から和文タイプになりました。慣れないタイプを打ち、コピーしたもので、手書きよりは良かったものの、やはり手作りの機関誌という感じのものでした。

そして、5号（58年9月）から渡並喜一郎さんが編集長になって、意欲的な内容にするよう努力がなされました。5号の編集後記を見ると、「5～8号の編集は、『知る・見る・聞く』を三本柱としています。指導員の皆様の活躍の手助けに少しでも役立つように、柔軟な幅広い視野で、今後の企画、編集に取り組みたいと思います。」とあるように、実際にはなかなか思うようにはいかなかったものの、編集に際して何らかの工夫がなされました。

2～11号の表紙は、目次を主とし、下1/3にいろいろな絵が入ったものでした。

## 2 機関誌の第2期

昭和60年6月の12号から、印刷した機関誌となりました。当時、理事会で会費の値上げの検討がなされたとき、会費の値上げを1,000円にして機関誌を印刷にしようということになったのです。表紙にも辻伸

夫さんの素晴らしい絵が入って、今までの手作りのものから、グッと機関誌らしくなりました。

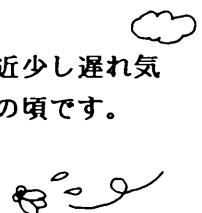
印刷することになって、編集長の渡並さんもさらに力が入り、12号から二次林、ため池・湿原などの特集を組むことになりました。各号の編集の都度、編集会議をもって、いろいろ議論しながら進めたもので、事務局と編集長の間に熱心さのあまりやや険悪な空気が流れたこともあったほどでした。13号のため池特集では、編集者が分担して、25,000分の1地形図から県下のため池の数を数えたりもしました。

20号からの編集長は、ほぼ1年ごとに代わりましたが、印刷による機関誌の発行は31号まで続きました。しかし、年4回の発行予定がなかなか守られず、発行が遅れることが常でしたので、理事会などでも問題となりました。

## 3 機関誌の第3期

機関誌の定期発行をするための方法を検討していた時に、神戸敦さんが見かねて編集長を引き受けてくださいり、平成3年3月の32号から、ワープロ原稿の印刷とし、薄くてもよいから年6回発行としました。また、表紙の絵は後藤春さんの植物画に変わりました。そして、神戸さんは機関誌の定期発行という目的を成して、当初の約束通り2年間で、編集長を現在の伏屋光信さんにバトンタッチしました。その間、機関誌の内容は、会員への各種情報提供が主となっています。

しかし、機関誌の発行が最近少し遅れ気味となり、協力者を求めるこの頃です。



## 協議会ニュース

創刊号

## 愛知県自然観察指導員連絡協議会

57, 8

思文刊創紙閱機關

名長 王竹勝

自然観察指導員のライセンスを取得はしても、学校教育と違って、自然保護教育には体系もなく指導要領もありません。これは各自が自ら作り上げるしかないことは言うまでもあります。自然観察指導員は単なる自然のものしきでもなく、自然知識の切り売りが目的でもあります。常に自然に対し自己研鑽をしなければなりませんが、大切なことはそれにとどまらず、自然と人の媒体として自然と対応し、共に自然から学ぶ必要があります。

小さな自然観察会を主催しながら1人でも多くの自然を理解する仲間をふやしながら、指導者として自然保護教育の体系を作ること努力をしなければなりませんが、そのためにも同一の目的をもつ指導員間の連携は重要なことです。本協議会も会員数が100名を越え、今年は50名の入会が予定されています。このような状況の中で、会全体として行動することは大変困難となり、会員からも支那の設置や、機関紙の発行を望む声が大きくなり、今回、会員の有志と事務局の努力で機関紙を発刊する運びとなりました。

非常にこじやかなもので、全会員の意向を十分配慮しているとは申せむが、今後、会員の意向を反映して内容を深め、各支部の活動や、全体の動きを把握していくだけるよう努力し、この機関紙を通じて会員相互の連帯を強めながら、愛知県の自然保護教育の推進を図りたいと考えています。

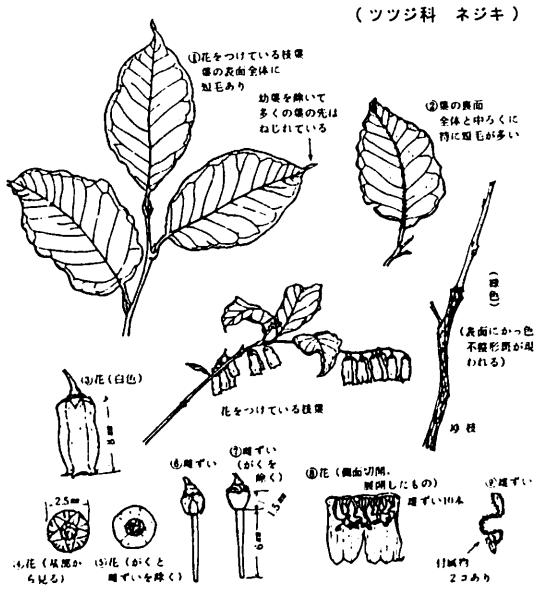
## 協議会ニュース

## 愛知県自然観察指導員連絡協議会

12号

60. 6

特集・二次林



## 協議会ニュース

## 愛知県自然観察指導員連絡協議会

586

◎ 地質現象にみる保全の昔と今	(船田芳雄)	1
〔地域情報〕		
・ <u>毛氷原の花</u> (2) —ササユリー—		2
◎ 鈴鹿山系のは乳頭メモ	(名和 明)	3
◎ カモシカ食害防除学生隊 (カモシカの会)	(都葵尚子)	6
〔会員広場〕		
・花の名前 (糸魚川とみ恵)		7
・自然を大切に (西郷光男)		7
〔自然観察情報〕		
・木の幹を石こうで作ってみよう (渡並喜一郎)		8
◎ 協議会行事報告		10
◎ 行事案内		11
◎ 会員の移動		11



## 協議会ニュース

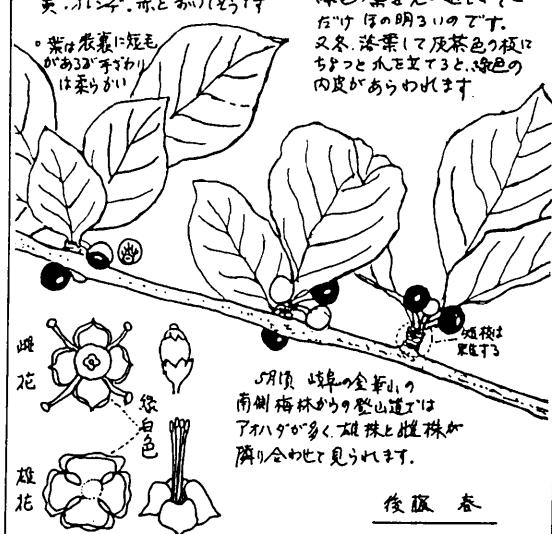
愛知県自然観察指導員連絡協議会 1991.11

## アオハタ(モチキ科)

1986.10.24 月正寺 127

- ・実は葉の付け根に4つ5つ  
黄・オレンジ・赤とあります

薄暗い森の内を歩いていたと  
緑色の葉を光が通してそこ  
なだけほの明るいのです。  
又冬、落葉して皮茶色の枝に  
ちぎつと爪立てると、緑色の  
内皮があらわれます



## 機関誌の主な内容

(号)	(号)
◎ 特集記事	
・座談会「自然観察会の進め方」(4p)	15
・自然観察指導員講習会の結果	20
・ヒメボタル (3p)	21
・全県一斉自然観察会 (3p)	22
・愛知県のブナ科樹木 (3p)	23
・新春座談会 「協議会の明日を考える」(4p)	24
・つづがむし病	25
・夏休み自然観察地案内	26
・一斉観察会のアンケート結果(4p)	27
・水生昆虫調査結果報告 (6p)	28
・野生哺乳動物 (4p)	29
・自然観察会 (3p)	30
○ 10周年記念大会から (5p)	31
○ 協議会に望むもの (会員意見) (4p)	31
○ 他府県の連絡会の状況 (4p)	31
◎郷土の自然	
・二次林 (3p)	12
・ため池 (3p)	13
・湿原 (3p)	14
・葦毛湿原 (5p)	16
・身近な自然について (4p)	17
・矢作川をめぐって (3p)	18
・街路樹 (4p)	19
◎観察と研究	
・クマバチの観察 (2p)	12
・小学校教材での試み (2p)	13
・街路樹の鳥の巣分布 (2p)	14
・ソウギョとトンボの出会い (2p)	15
・一人よがりの自然研究 (2p)	16
・香嵐渓の春 (3p)	17
・鶴舞公園の鳥 (1p)	18
・休耕田の植物 (1p)	18
・ヨシノボリのすみわけ (1p)	20
・愛される都市の中のため池 (2p)	20
◎ 生物の暮らしと分布 [北岡明彦]	
・マツクイムシの不思議 (1p)	12
・タヌキモの仲間 (1p)	13
・シラタマホシクサ (1p)	14
・愛知県のブナ林 (1p)	15
◎自然と環境N O W	
・長良川河口堰問題を通して (1p)	29
・サシバ・シデコブシ (2p)	30
・身近な森・海上の森 (2p)	31
◎私のフィールド	
・定光寺 (2p)	32
・桜淵と腕坂山 (2p)	33
・東海市のホタル (2p)	33
・鳳来寺から名古屋東山丘陵 (2p)	37
・境川河口 (4p)	38
・日進町の植物 (1p)	40
・小坂井町の自然 (3p)	41
・名古屋東部丘陵 (2p)	43
◎マイウォッキング	
・三好ヶ丘団地造成予定地の昆虫 (1p)	21
・豊田一蒲郡自転車ハイク観察 (2p)	22
・エダナナフシの擬態 (1p)	22
・観察研修 (ブナ林と高層湿原) (1p)	23
・光明寺緑地の動物 (1p)	23
・トラフズク探偵団 (1p)	23
・アミメカゲロウ集団羽化の記録 (2p)	24
・藤原山系春の花	25
・磯で暮らす動物の観察	25
・全県一斉観察会の調査結果	26
・セミの抜け調査 (2p)	27
・カワセミの観察 (1p)	29
・八事裏山の夏が始まる (1p)	30
・白山の調査を終えて (3p)	31



(号)	(号)
◎ 自然観察施設訪問 [中西 正]	
・東京港野鳥講演(1p) ..... 34	◎ 私の自然観察
・福島潟鳥獣保護区管理センター(1p) 35	・相地 満 (2p) ..... 48
・サロベツ湿原・原生花園(1p) ..... 36	・北岡明彦(1p) ..... 49
・滋賀県フローティングスクール(1p) 37	
・千葉県生態園(1p) ..... 38	◎ その他
・キープ清里サンクチャリー(1p) ..... 39	・鈴鹿のほ乳類メモ (4p) ..... 4, 5
・白山自然保護センター(1p) ..... 40	・自然観察指導者全国大会(2p) ..... 13
・豊田自然観察の森(1p) ..... 41	・自然観察の2つの方法 (2p) ..... 19
・赤沢自然休養林(1p) ..... 42	・自然観察指導員講習会 (5p) ..... 20
・ある小湿原のビジターセンター(1p) 43	・アミメカゲロウの集団羽化 (2p) ..... 24
◎ 数字から見る愛知県	・アンケートに見る観察会の変遷(2p) 31
・愛知県の森林(2p) ..... 44	・支部たより・他団体の機関誌(3p) ..... 33
・愛知県の土地利用(2p) ..... 47	・廃品を利用した観察器具(3p) ..... 33~36
・愛知県の河川(1p) ..... 49	・豊川右岸の扇状地と水無川(3p) ..... 35
◎ 各地の活動から	・私と鮎の物語(4p) ..... 39
・ものみ山自然観察会(1p) ..... 47	・自然との新しい出会い(4p) ..... 42
・境川河口から(2p) ..... 48	・冬の日に想うスミレ(3p) ..... 43
・大高緑地の自然を守ろう(2p) ..... 49	・花の山藤原岳に上ろう(3p) ..... 45
	・作手湿原のカヤツリグサ科寸評(3p) 47

※ 機関誌のバックナンバーがまだあります(一部を除く)ので、希望者は佐藤までご連絡下さい。なお、4冊以上希望の方は郵送料270円を、8冊以上希望の方は郵送料390円をお送りください。(切手でも可。3冊以下は当方負担)

~~~~~「渥美自然の会」からのお知らせ ~~~~

- ・『レッドデータ渥美』(1部300円)を発行しました。
- ・渥美半島に自生・生息する動植物の中で、絶滅の危機に瀕している種などを紹介し、保護・保全を訴えようとして作成されました。
- ・取り上げた種・群落などは25項目
- ・郵送は事務の手数を省くため5部以上まとめて
- ・送料は当方で負担
- ・問い合わせ先

〒441-35 愛知県渥美郡赤羽根町大字高松字一色4

大羽康利 ☎053145-2607 郵便振替00870-5-37797



ミサゴ

## 私 と 自 然 観 察

篠田陽作（名古屋支部）

### 1 私にとっての自然観察

私にとっての自然観察とは、自然の中で感じた喜びや感動を分かち合える人々とフィールドへ出かけることです。自然観察会は人との触れ合いを求めて自然の中へ出かけて行くことから始まります。自然は人間の心を素直にし、感受性を高め、硬直した心を解きほぐしてくれます。そのような状態で自然を眺めると、普段は気がつかなかつた事が見えてきたり、感じられます。そして素直に感動したり、喜ぶ事ができるのです。

### 2 広く深くさらに楽しく

感性の喜びだけに満足する事なく、さらに知る喜びを求めて、草花や木々、昆虫、動物を、そして我々人間との関係を広く深く知るために、調べたり、考えたりします。

例えば、一つの木の花を見つけた時、これは、何々という木の花です、だけでもよいのですが、この花の匂いをかいどごらんなさい、どんな匂いがしますか？と問いかけます。参加者からいろいろな反応が返って来ます。甘い匂いとか、リンゴのようだとか、それぞれの感性でいろいろあっていいと思います。そのことによって、参加者は花と木の名前とその匂いの情報が得られます。

さらに、皆さん、こんな名前のチョウを知っていますか？実はこの木にはそのチョウが卵を産むのです、そして、そのサナギには寄生バチが卵を産みつけます。また、この木の皮は、漢方薬として昔から使われていて、こんな病気によく効くそうです、

などとたんに木の名前を知るだけでなく、昆虫や我々の生活との関係を知ることによって、自然への関心や興味がどんどん広がって行きます。

たしかこの木は家の近くに在るからもう一度良く見てみようとか、チョウの卵はいつごろですか？と話がはずみます。ですからこの木が少なくなると、チョウもハチも漢方薬も無くなっていくのです。それらの関係の糸を手繰り寄せていくって、それらの関係の不自然さや、うまくいっていないことに気がついた時、その原因を考えます。そして、我々の自然破壊に気がつき、自然保護の問題にたどりつくと思います。

### 3 そして自然観察会

しかし、その自然保護にたどり着くのが目的で自然観察会を行うのではありませんが、結果としてそこまでいけば自然観察会は成功だと思います。けれども、あくまでも観察会は自然の中で感動し驚き、喜んでもらえる事を願いながら、毎月の観察会をしています。

### 4 そして終わりに

一日の観察会を終えて解散のときに、参加者の方から、「今日はいろいろな植物の名前を教えていただいてありがとう。」と言われるより、「今日は楽しい観察会でした。」と言って貰えるように努力したいと思います。そして、私も最後に今日は皆様と一緒に自然を楽しませていただいたありがとうございました。と心からお礼が言えるような観察会を行いたいと思います。

## 環境教育で大切なものの

この春に会員にお送りしましたアンケート葉書で、「環境教育において何が最も大切な」の質問に対するお答えは、次のとおりでした。

私達の自然観察会活動はさしづめ自然教育で、それは環境教育の一部と言えましょう。そして、環境教育も人間教育の一部になるでしょう。環境教育というと、多くの環境要素を対象とするだけに幅の広い、取扱困難なものに思えるかもしれません、究極的には人間教育の一部と思えば、目指すところは一つとも言えましょう。そして、それだけに、また別の難しさがあると思えます。

「環境教育で最も大切なものは」という、漠然とした質問を投げかけましたが、それだけに、回答にはその人の自然なり、生活に対する態度が現れていると思います。大切なことは、多くの人の言葉に耳を傾けることであり、それが自分の教育の始まりで、さらには環境教育をする者になる始まりとも言えるのではないでしょうか。

(佐藤国彦)

＊＊＊＊＊

★ やはり体験を通して理解を深めるというのが大切と思います。

★ 原体験・原風景を作つてやることだと思います。共通のとは言いませんが、共有できる価値観がなければ環境とか自然についていくら力説しても、その人に触れるものはないと思います。それを作る下地が原体験ではないでしょうか。

★ 子どもについては、早い時期からの自然との係わり、そこでの人との係わりが何よりも大切であると感じられます。そのためにも、まず大人自身が自然とどう係わりながら生きていくか、ということに取り組んでいく必要があると思われます。

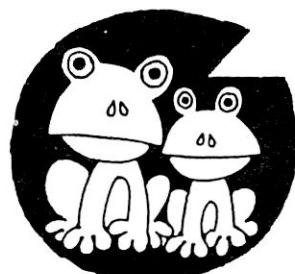
★ 保育園で保母をしていますので、草花遊び、虫とり、かえるとり、魚とり（ドブみたいな用水にも小さな魚がいます。）など、自然にじかに触れる機会をいっぱい取り入れたいと思います。（10年位前は、ザリガニよりもやりましたが、そのザリガニも見なくなりました。）

★ 自然や生き物への関心、レイチェル・カーソンのいう「神秘さや不思議さに目を見張る感性」を持たせることが必要だと思う。

★ 今の子どもたちは、理解はできるものの、それが実践に結び付かないでいることがよくある。私の学校では、生徒会活動を柱に、自然保護に結び付く自身の生活の工夫をねらったもの、福祉活動に発展させた牛乳パック回収等を実施し、心をゆさぶる活動のあり方や息長く続く活動とは何かを担当者を中心に検討してきた。

★ 「自然と共生する」という考えが大切と思います。

★ 「自然を守るマナーの教育」



と「ゴミと自然環境保全の教育」など。

★ 環境教育を行うことによって、地球を愛する気持ちが高まり、日々の生活での態度も環境を考えたものになっていくこと。

★ 地域開発（大規模開発）が市町村あるいは県に進達された場合、地元有識者の意見として本協議会が意見を求められるような制度の改正を含めて検討されたい。

★ 何よりも大切と言われれば、教師自身の自覚だということになるでしょう。紙のムダ、電気のムダ等、便利ということに慣れ、環境を守るという流れに逆行するというか取り残されるというか、そういう人間に教育される側の自覚が高まるでしょうか。企業だったらとっくにつぶれていることを平気で行っているのが官庁と学校ではないかと思います。まず、そこを変えないと子どもは育ちません。実際、授業を行い、教員室にいると、痛切に感じるのはこのことです。

★ ゴミが海を埋め、池を埋め、谷間を埋め、そこから流れ出る汚水は、川を汚し、へどろ化して、魚の住める海を狭めていることに無関心でいる今、10年後、20年後はどうなるか考えられる人を育てたい。ある陰イオン系中性洗剤は、8,000倍に薄めたものでも、1時間でメダカを殺し、32万倍でも4日で半数が死ぬ。今は、メダカがいなくなつたですまされているが、食糧とするイワシやマグロが死滅したり、汚染された畑地で野菜も米も麦も作れなくなつたら……宇宙服着て、宇宙食を食べる時代が来るのではないか。濃硫酸の雨の降る地球で人間が生活できるのか、その元凶が人間であることを知っているのか。わが手で、我が身を、わが子を、わが孫までも抹消しよ

うとしていることに気付かせたい。

★ 環境倫理の形成についてどういった貢献の仕方があるか、お互いの立場で明確にしていく必要があると思います。例えば、自然観察ならば「自然観察会」はどのように貢献できるかということを試行的にでも打ち出していくとよいでしょう。環境教育といつても、定義すら明確になっていない現状の中で、しかも環境と教育という人間の生存に係わる二大根本義を複合させることは、そう簡単にできることではないと思います。従って、これが環境教育だと考えたり、そのためにはこうすべきだと考える必要はないと思われます。これまで進めてきたように自然を愛し、人間を（特に子どもを）大切にする歩みを継ければ良いでしょう。それゆえに、私達の活動は、尊い独自性をもった活動になり得るのだと思います。

## 会員の動き

### 【脱退】

- ・太田直美（知多支部）
- ・中根鉄信（西三河支部）

### 【住所変更・表示変更】

- ・荒巻敏夫（東三河支部）  
〒441-25 稲武町稻橋字下タヒラ 3-1  
(☎ 05368-2-3143)
- ・猪狩雅史（東三河支部）  
〒440 豊橋市牛川薬師町 30-6  
(☎ 0532-52-1563)

## 「トトキ」が第1位

知多支部 相羽福松

「トトキが10票で第1位でした」天ぷらパーティーが終わると、会員の鈴木樹雄さんが高らかに投票の結果を告げた。

4月24日、第1回の自然観察会、武豊を武豊町自然公園で開催した。

朝、小雨がぱらつき心配でしたが開催時間の10:00には雨もあがり晴れ間が見えて来たので一安心した。初めてのことなので参加者が少ないとと思っていたのですが、大人18名、子供5名、計23名も来て下さいました。地元をはじめ遠く名古屋市からもみえまして、正直いってほんとうに嬉しかった。

はじめに自己紹介。そして、自然観察会の目的と、五感を働かして観察することを話した。「自然に親しみ、自然を知り、自然を守る」このことを参加者に理解してもらいたかったからである。

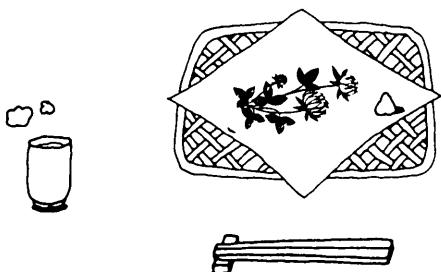
今回のテーマは「春の野草観察と天ぷらパーティ」である。早速、畔と土手のある現地へ出発した。春の七草を説明する。いろいろのスミレが咲いている。スミレ、小さな花のツボスミレ、匂いのあるのはニオイタチツボスミレだ。真っ赤なコモウセンゴケを見て参加者は感激の声。春の光をいっぱい受けているのはハルリンドウ。食べられる野草と有毒の野草を教える。毒草のキツネノボタンが多いが、ほとんどの方が知らないのにはびっくりした。採集の注意点も忘れずに指導した。アットいう間に12:00を過ぎたので、昼食場所へと帰る。

おにぎりを食べ、午後は天ぷらパーティ。パーティーといつても皆でガヤガヤと喋りながらの共同作業である。野草を洗い、天ぷら粉を水でとぐ。油が煮えたぎつてきたので私が揚げようとすると「私に任せて」と女性の方から声がかかる。ヨモギ、レンゲ、トトキなどを種類別に揚げてくれた。食べるほうが早くて揚げのほうが間に合わないくらい。「ツバキも食べられよ」と真っ赤な花びらが美しい。

1時間くらいたつただろうか。参加者は思い思いに食べて腹一杯になったようである。一応区切りがついたところで、おいしそうな野草ベスト3を決めるために投票をしてもらつた。投票の結果、1位トトキ、2位シロツメクサ、3位レンゲに決まった。以下、サルトリイバラ、セイタカアワダチソウ、ハコベ、ハハコグサ、ツバキと続いた。「ツバキが食べられるとは知らなかつた」「セイタカアワダチソウがこんなにおいしいとは。家の近くにいっぱいあるよ」などの声が聞かれたなかで、今日のプログラムを終了した。

参加者たちは満足してくれただろうか、話がうまく伝わただろうか、企画に間違はないなかつただろうか、と反省しながら帰路についた。

最後になりましたが、一人の力はたいしたものではない。会員の方の協力があつてこそ出来たものだと感謝している次第である。



## 山崎川ウォッキング（3）

白木 幹司

生物は地球上の時間と空間を利用して、棲み分けて進化してきたといわれていますが、山崎川の魚を狙うサギの仲間も、白いダイサギとコサギは明るい白昼、暗色のアオサギ・ゴイサギ・ササゴイは薄暮に狩りをしています。

平成4年の夏、この写真の50mほど下流の三面コンクリートの浅い水路を、ハトより少し大きい茶色がかった見慣れない鳥が、ゆっくり歩いて足元をさぐっていました。鳥に弱い私は、図鑑を調べても判らず、そのまま亡っていました。

平成5年になって、メモによると7月1日から7月中、観察に出かけた平水の時は、ほぼ毎回見かけています。車の往来の激しい幹線道路の脇の歩道の5mほど下で、上から見ている人も全く気にせず、時に少し移動するだけで、ヘラ鮎釣りの人のようにじっと水面を見つめて、遡上するコイの稚魚などを狙っています。

昨年の夏は、梅雨入りが2度あったりして、7月末から8月は増水が多く、その後は10月1日に一度見かけただけです。

写真は7月4日に、周りが判り易いようにワイドで撮ってあります。左の深い淵は、南北に走る田代本通の地下100mの暗渠から西の方へ水路が流れ出る所です。左の水面の上端に体長50cmほどのマゴイが2尾、水面すれすれに泳いでいます。水深5cmほどの堰の上で、そのササゴイが待ち構えています。

この鳥がササゴイかどうか、野鳥の会の人には聞いたら、この場所へ現れる可能性はあるとのことでしたが、鳥に詳しい人、教えてください。ゴイサギよりはやや小さく見えました。



## 8月・9月の行事案内

### ◎協議会行事

8月20・21日（土・日）長野県、霧ヶ峰・八島湿原

9月10・11日（土・日）岐阜県恵那郡、はなの湖キャンプ場

照会先：佐藤国彦 ☎05617-3-5674 詳細は申込者に連絡

### ◎各支部行事

8月7日（日）

・[尾張支部・月例会] 七宗本谷国有林 JR高山線・上麻生駅9:00

照会先：平井直人 ☎052-502-1020 「岸壁の植物とアジメドジョウ」

・[知多支部・研修会] 阿久比町公民館8:30 「水生植物」

・[東三河支部・観察会] 伊那谷北部6・7日

8月21日（日）

・[東三河支部・観察会] 奥三河の滝

9月10日（土）

・[尾張支部・月例会] 三岐鉄道・西藤原駅9:00

照会先：北岡明彦 ☎0561-84-2953 「秋の花30種とススキの草原」

9月11日（日）

・[知多支部・観察会] 壱町田湿地、同湿地9:15

・[西三河支部・観察会] 蘭荔渓谷、駐車場10:00

・[奥三河支部・観察会] 茶臼山林道、ロッジ10:00

9月15日（祝）

・[名古屋支部・観察会] 猪高緑地9:30



## 大盛況の自然観察会

3月21日 猪高緑地 朱雀英八郎

前日に明日は集まりそうだと予想したが、天候にも恵まれ、100名からの参加となった。まずはウメ・サクラ（早咲き）・モモの違いをサンプルで見る。香りの違いも調べる。

今回は「春を探そう、感じよう。」がテーマだ。ツバメが来るはずと予想したが、空振り。4班に分けるがはみ出す人もいる。リーダー確保が精いっぱいで足りない。コースは、センター前～散策路～高台雑木林～プール前～奥の畠～サンショウの池・対岸湿地～竹林探検コース～東の丘～トンボ池。（池一周Aコース）

散策路からプール裏の雑木林・高台では木を抱いてみる。4班なので時間調整に1時間かけた。プール横に出て、ここでも観察雑談。鈴木先生が水生生物をサンプルで説明。タカが飛ぶのを山口さんが見つける。

奥の畠、ビオトープ実験地を見て、サンショウウオの池を覗く。次に対岸湿地へ。モウセンゴケが土が乾燥気味なので少ない。普通はここで休憩だが東の丘へ急ぐ。

東の丘では猿投山と、遠くに雪をかぶった御岳を見ることができ感激した。

池あり、丘あり、田畠ありの緑地を、リーダー任せでプリントも不足であったが、みんな楽しんだよう。大人から子供までの多様な顔ぶれとなりリーダーを喜ばせた。

文化センター講座や生きがい生協からも参加があった。個人的なPR等はいろいろしている。人は集まる。続けて来る人は多くはないが、仲間は徐々に増えている。

午後からも「たいようの杜（長久手町）」から探索。平野さんらが数年前に見つけたタヌキの巣の跡を捜しに出かける。道を間違えたりしたが、見つけることができ、子供たちは喜んでいた。巣はもう使っていないよう。（15名参加）

この緑地にエコパーク計画がいわれるが、今ある自然を残し、数少ないものは保護しながら、自然や生き物に親しめるところにしたいものだ。

## ♦花の藤原岳観察会報告♦

尾張支部 北岡 明彦

日時：1994年4月29日（祝）午前9時～午後5時

参加者：95名（指導員16名、友の会15名、一般55名、子供9名）

天候：快晴・微風、ヤマビル被害者：1名

尾張支部恒例となった春の特別観察会『花の藤原岳観察会'94』は、担当者もびっくり仰天の大部隊となりました。野鳥の会とも重複したため、三岐鉄道西藤原駅前は大混雑、こんなことは最近10年以上もなかった情景です。もちろん我々観察会の一行95名というのも、過去最多記録です。

山麓の博物館から坂本谷入口までの間に、もうイチリンソウ・ニリンソウ等、きょうの主役が登場し、なかなか足が進みません。二又分岐までは、「これは、ツルカノコソウ」「これは、ミヤマカタバミ」と、皆元気いっぱいですが、少しずつ声が減っていくのは疲れてきた証拠です。中間地点の石灰岩壁にあるヤマブキソウは、ほとんど蕾の状態で、例年よりほぼ一週間の遅れの感じ。名古屋周辺は昨日大雨が降ったのに、こちらは降らなかつたらしく、山はカリカリの乾燥状態。心配したヤマビルは大丈夫ですが、花たちは少し生気が欠けていて、ニリンソウなどはちょっとしおれ気味なのが残念です。

支尾根に出ると、待望のカタクリが出現しました。今年のカタクリは全体的に少し小振りです。日陰斜面には、何と、残雪がわずかに残っており、昨冬の雪の多さを物語っています。白瀬峠には、12時15分着、いつもより15分程早めでした。少しお疲れの方もみえたようです。

のんびり昼食の後、1時に出発。背丈を越えるササ原をぬって歩くこと約1時間で、日本庭園風のお花畠に到着します。私の一番好きな花即ちペイントやヒロハノアマナが満開、早春の花フクジュソウもまだ咲いていて、とってもBeautifulでした。珍しい種類としては、キバナノアマナ1株とホソバノアマナ2株が見られました。途中、天狗岩に寄って、避難小屋には3時到着。

もうあとは下るばかり。8合目で、最後の一種・ハルトラノオを愛でてから、表登山道（大貝戸道）を縦長一列で下っていきました。がくがくし始めた膝を叱咤激励しつつ、何とか2合目の水場で一休憩。西藤原駅には、5時少し前に到着。先行隊は、一本前の電車で出発していました。その後、疲れた顔をした人達がばつばつ帰着。どうもご苦労様でした。

疲れたけど、花を満喫した心地よい一日だったと思います。



# 自然観察会に参加して

昨年10月に伊良湖で行った自然観察指導員講習会のおり、新たに会員となられた方に、各地で開催される自然観察会に参加した意見・感想を事務局へ送付していただきました。

寄せられた回答は、あまり多くはありませんでしたが、その内容をまとめた結果は次のようです。講習会の受講者といつても様々なレベルの人がいて、初めて観察会に参加したした人から指導を多く行っている人までいます。ともにいろいろな意見が出て興味深く思いましたが、我々が忘れていた「初心に返る」ことの大切さを感じました。

(佐藤国彦)



## ㊂ 5.10.16 猪高緑地

プール前にて塚の松池の水草、特にヒシの生態について説明した。ヒシの果実の茎への付着状況や子葉部の割面を観察させた後、試食させた。秋祭りの風物詩であった「茹でた黒い菱の実」を知っている年齢層は、懐かしそうであった。

## ㊂ 5.10.17 東山公園

指導員がたくさん参加していたので、各班の連絡係のような立場で案内する。講習会で学んだショロウグモの生態などの受け売りを早々する。参加者は、興味深く観察していた。

## ㊂ 5.10.24 大高緑地

県委託とJ A Fの観察会が重なり。J A Fの方に参加する。自宅に近いが、年に1~2回しか来ていないので、2回ほど

下見をした。主な目標は、樹木、草で20位の観察ポイントを考える。ヌスピトハギやイノコズチなどのカギをルーペで観察させた。

## ㊂ 5.10.31 ものみ山

知らない人達の中に飛び込みで参加した。初めての観察会だったので、感心してメモすることばかりであった。いろいろな観察のうち、一つの興味あるテーマ（今回はドングリ）を出して、それを時々話の中に入れていく、最後に締めくくるという方法が、観察会のあり方として勉強になった。



## ㊂ 5.10.31 ものみ山

就学前の幼児が多かった。ただ、幼児を中心とするならば、ここまで来なくても、身近な公園予定地などで、臨時青空

保育所を開設し、野草なども正しく採集させて、草木遊びなどを通して自然の大切さを分からせる方が効果が上がるよう感じられた。

## ㊂ 5.11. 6 ものみ山

野鳥の生態、人間との係わり方、バードウォッチングの仕方等。

初心者として鳥の見分け方の勉強がわかり易く、実地で少しずつ覚えられた。鳥の生きていく場所の大切さも教えられた。

## ㊂ 5.11. 7 定光寺 (協議会)

初めての観察会でやや緊張して出かけましたが、会のとりまとめのリーダーが

わからず一般参加者のように参加してしまいました。

10月の講習会で、学んだ中に、参加者にいろいろ活動してもらう場を工夫するという点では、やや不満の残る会でした。例えば、シイの実拾いの時間をもう少しとるなどしてもよいと思う。また、自然保護のアピールも観察会の中に入れることは必要ですが、やや話の中に多すぎた気もします。これは人それぞれ受取方の違いがあるので私だけの感じかもしれません。コース全体で学んだことはまあ良かったと思います。

#### ㊂ 5.11.21 東山・八事裏山

いろいろな木の実を食べてみました。ムラサキシキブの美しい実が食べてもおいしいものと、初めて知りました。

#### ㊂ 5.12.26 森林公園（尾張野鳥の会）

鳥が見つかるまで待っているなどバードウォッチングの仕方を教えられた。終った時に、今日出会った鳥の名前、数を発表し合うことも勉強の一つであった。鳥と自然、木と木の実等の名前などの係わりが自然観察そのものであることを知らなかつたので感じてしまう。

#### ㊂ 6.1.9 善師野（支部例会）

2回目の行事で、初回より気楽に参加でき、初回で顔を合わせた人が多くいたので、安心できました。指導員全体に顔見知りの人と話をする雰囲気がやや強い感じを受けます。自分もそういう所があるので反省しています。「誰でも気楽に話しかけ、誰からも気楽に話しかけてもらえる」という雰囲気作りをしていくことが、仲間作りには大切と思います。

また、午後の支部総会では、年間計画を全てその場で話し合う進行は、ロスター

イムが多く、初めての参加者としてはつかれました。事前にわかっている県委託の観察会などは、大まかな方針を支部役員さんでまとめて（大変でしょうが）おくと、その後の学習会にも時間が使えるのではないかでしょうか。また、その場で各自のフィールドの活動報告会などを入れていくと、もっと皆さんに参加されるように思いました。

#### ㊂ 6.1.9 岳見高原

観察指導リーダー養成講座に同行する受講者の中に自然観察指導員も2~3名見受けられる。自然観察会の参加者との受講者では意気込みが若干違うようである。特に、個人毎の「何か面白いもの探し」とその説明では各自の経験と学識の程が認められた。

#### ㊂ 6.1.16 東山・八事裏山

樹木の調査でした。シダの茂みを分けたりして、辺りを踏み荒らしてしまったのではないかと、少し反省しています。



#### 情報コーナー

##### 〔出版物〕

- 「豊川の社寺林と太い木」

発行：1994年3月 豊川市教育委員会

調査編集：池田芳雄他

内容：豊川市内の社寺林 10カ所と大木

## 事務局から

### ★理事会

〔期日〕 平成6年3月6日(出席:12名)

〔場所〕 中社会教育センター

〔内容〕

#### ① 平成5年度事業結果及び6年度計画

- ・協議会は、広報がヘタなので、観察会などの広報のあり方について今後検討する。
- ・年報が遅れており、会の資金不足もあるので、今回は予定通り発行するが、次回は再検討する。
- ・支部経費が赤字のところがあり、協議会経費と支部経費のあり方について、部会で検討する。
- ・支部で外来講師を呼んで研修会を行った場合は、協議会からその経費を補助する。
- ・協議会の総会は、今後3月の第4日曜日とする。(平成7年は、3月26日)

#### ② 指導員制度について(意見交換)

意見交換の中の主な意見は、次の様でした。

- ・県に指導員制度を設けてもらうこと、上級リーダー制度の設置、協議会の法人化などを考える段階にきているのではないか。
- ・県行政とあまりくつき過ぎるのも会や会員の行動を狭くする恐れがある。
- ・県との付き合いの中で、行政にいろいろ意見を言えるというメリットはないだろうか。
- ・自然保護に対する協議会の態度をはっきりさせる必要がある。
- ・直接運動を行うのではなく、自然に関心がある人を育て、底辺を広げるのが協議会の立場と言えよう。

- ・観察会などを常に行ってている場所が開発の対象になったときはどうするか。
- ・大高緑地の例のように、必要な場合は別の組織を作つて活動するのがよいと思われる。
- ・市町村など自然観察会を行う機関に、協議会のPRをもっと行うべき。
- ・協議会は民間で言う営業活動が弱い。
- ・営業の結果生ずる各種依頼に答えれる体制にすることも必要である。

#### ③ その他

- 知多支部において、5年度に県事務所の主催で、学校の先生を対象として県民の森で講習会を行い好評であった。6年度も教育事務所と協力して進める予定がある。

### ★総会

〔期日〕 平成6年3月20日(出席:38名)

〔場所〕 県産業貿易館(名古屋市中区)

〔議案〕

- 第1号 平成5年度事業報告
- 第2号 平成5年度決算
- 第3号 平成6年度事業計画
- 第4号 平成6年度予算

(すべて原案通り承認されました。)

#### 〔質疑応答〕

総会の際に出た主な質問及び回答は、次のようでした。

- ・各支部の活動状況はどうか。  
(支部により運営方法はかなり違つていいが、それぞれ地元と結び付いて活発に活動している。)
- ・研修会等の内容の徹底が遅いので、早目に会員に知らせるように。  
(そのことは、理事会でも指摘されたこ

とで、今後は早目に連絡するよう努力します。)

- ・会の行事が堅苦しくないか。

(気楽な研修会や行事を企画していきたい。)

- ・支部が経費的に苦しくなっているので、協議会からの支部配分金を少しであっても減らすのは問題ではないか。

(支部の経費は、協議会からの配分金でまかなっている支部と支部会費や他の収入によっている支部があり、その運営方法は様々です。また、協議会としても、

会費の値上げはなるべく避けたいと思っていますので、各種経費の節約にも努めている状況です。協議会と支部の経費的な関係については、今後理事会等で検討していきたいと思います。)

### ★ 会員からの意見

春に各会員に葉書を送付して、協議会に対する意見等を求めました。寄せられた意見と事務局の考え方は、次のとおりです。

- ・地域ブロック単位で、指導員相互の親睦や研修を2カ月に1度位開催してはどうか。

(協議会の研修会は、支部の異なる会員の交流の意味も含めていますし、各支部の行事に他の支部の方も参加できることとしています。しかし、協議会の行事が近年少なくなっています。各支部の行事などの情報提供も遅れがちです。会員の交流を増やす意味でも、協議会の行事の進め方を工夫するように考えていきたいと思います。

- ・新人指導員に対して、観察会の指導方法等の教育が必要ではないか。

(今年から、新人指導員研修会をほぼ毎月行うこととしました。新人と言っても参加者は特定していませんので、誰でも参加できる勉強の場として利用してください

さい。来年度まで続ける予定です。また、今年は、自然観察の指導方法の研究会を数回行う予定ですので、気軽に参加してください。)

- ・参加していない会員に、参加意欲を持たせるような行事にしていくことが大切ではないか。

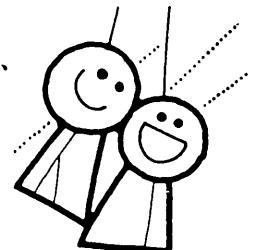
(協議会の行事に会員の参加が少ないのは、事務局の悩みの種でもあります。現在の事務局のスタッフが少ないため行事の幅が限られてしまうこともあるようです。多くの方が事務局に入って、いろいろな企画していただけよう考えています。皆さん方の御協力をお願いします。

- ・支部の経費、経営には独自性をもたせるべきではないか。

(支部の活動が活発になるに従って、経費的な問題が出てきています。協議会ができるとき、各支部は協議会の支部であるとともに独自の団体でもあるという二面性を持たせてきました。そのため各支部の運営については、協議会としてあまり介入はしないようにしてきました。事務局としては、今後ともこの姿勢は保つつ、支部の運営も円滑にできるような方法を、理事会等で検討していきたいと思っています。

- ・奥三河支部の会員数が伸び悩んでいるので、支部の合併も考える時ではないか。

(支部の会員数が多くなって事務などが大変になっている支部や、会員が少なくて活動しにくくなっている支部があり、合併・分割を検討すべき段階にきているようです。しかし、支部には今までの歴史もあり、簡単に手直しすることは難しいため、時間をかけて各支部とともに検討していきたいと思います。)



## 会員近況

この春に会員にお送りしましたアンケート葉書から、近況が寄せられた分を次にまとめてみました。

\* \* \* \* \*

● 平成6年度から名古屋支部の通信送付を受け持ちはしました。103名の会員が双方向の情報を得られる有意義な通信です。しかし、受け持つて初めて予算不足を知りました。今まで継続してきた先輩の努力に頭が下がりますが、今後どのような体制がベターなのか考えさせられています。

3月末頃、名東区の明徳緑地にて、ヒキガエルとトウキョウサンショウウオの卵塊を観察の後、コナラの林の中で、落ち葉を踏みしめて池に向かうヒキガエルに出会いました。娘の感動した顔がよかったです。

〔青山祐子〕

● 定年退職後5年目を迎えて、まさか今頃と、自分にも思ってもみませんでした就職をしてしまいました。そんなわけで、本年に入ってからは理事会、総会にも出席できませんでした。〔石川静雄〕

● 4月8日に自宅にツバメが来て、早々例年使用している巣に入ったりしています。今年も利用すれば、少なくとも4年連続ということになります。過去3年の間に、自宅及び近所で育ったツバメの雛40羽程に標識調査もしています。昨年は、自宅で標識したツバメを12km程離れたツバメのねぐらで回収しました。

学校の生徒からも貴重な情報を得ています。ミヤマクワガタやフクロウ類が多かつ

たのですが、今年はトウキョウサンショウウオの卵塊を数えてもらいました。現在、渥美で2カ所の生息地がわかったことになります。

〔大羽康利〕

● 自然観察指導員としての活動が大変おろそかになって心苦しいばかりですが、日々情報をいただけたと嬉しく思います。今は忙しくて外へ出られないのですが、いずれ時間を作つて、何かやりたいと思っています。

〔小野木三郎〕

● 春になって、自分のまわりが花や木々の緑に包まれてくると、日本の自然の移り変わりがすばらしいといつも思います。海外旅行に行った折は、南の方の国が多かつたせいか、あまり日本の自然の四季のうつろいのような感がありませんでした。

今は仕事をもつてるので野山を歩くような時間的な余裕があまりありませんが、是非機会を作つて参加させていただく予定です。家内も猪高緑地の観察会に参加してから、「また是非行きたい」と言うようになりました。一人ひとりの仲間を増やしていくことも必要かと存じます。

〔亀井省三〕

● 春の足助の人の波を見てうんざりしています。矛盾するようですが、リゾートブームの後の自然志向ブームで、マスコミのあおるカタクリの花には人の波といった形の自然回帰に嫌気がさしていました。

〔川辺泰正〕

● 米・野菜作りの勉強会にかかわり始めて3年目を迎えました。今年は、冷夏等天

候不順への備えを考えています。

日本列島における北海道・東北の先住民と考えられますアイヌ民族（あるいはエミシと呼ばれた人々）の生き方、世界観に感ずるものがあり、このところ北海道通いが続いています。

〔鈴木成和〕

● ロシアに送ったバイカルの写真集の返事がきて、水生生物や土壤生物を利用した生物モニタリングを実施（小中学生達と）したいのだがということで、英文の資料もないでの、若干の図表に英語で解説をつけて送ってやりました。航空便を使っても一往復2～3カ月で、行方不明のものも多く、資料を持参して腰を据えて説明しなければだめかなとも思います。あちらではDrの資格（生態学）を持った人で中学教師として、環境教育の第一線に立っている人もいますし、研究者を中心とした市民組織が自然保護や環境教育の仕事をしています。

〔武田 篓〕

● 土曜も日曜もないくらいの忙しい毎日で、活動に参加できないのを申し訳なく思っています。

〔鶴田一昭〕

● 思い立って、柿田川の湧水を見てきました。普通電車で名古屋から三島までというのは、さすがに時間がかかりましたが、川底の砂を巻き上げて、湧き出す水の力強さに感動しました。

〔福西寿広〕

● 6月に出産を控え、観察会等にはしばらく参加していません。陽気もよくなり、少しうずうずしていますが、こういう時期もあるとおとなしくしています。とはいうものの、体のためにも少しは運動しなくてはと思い、買物がてらぶらぶら近所を歩いています。今まで住んでいた名古屋に比べ、半田にはまだ空き地も多く、また空き地以

外にも家の庭先や電車道の土手などに、名古屋ではあまり目にしなかった「草」がいろいろ生

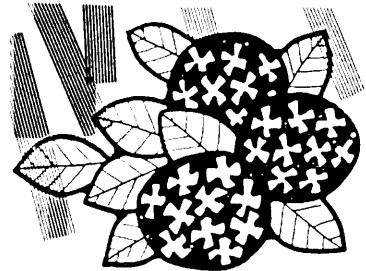
えています。

オオイヌノフグリやカラスノエンドウでもこんなに普通にあるとは思わなかったし、そうなるとふだん気にしなかった道端の草花が気になってしまたがなくなり、この花はなんだろう、かわいいピンクの花だわ、こんなところにスミレが、白バナタンボボもたくさん咲いているわ、なんて、毎日歩くたびに発見があります。これからも、今咲いている花はどうなるのだろうとか、夏になるとどんな花が咲くのだろうと楽しみにしています。

〔藤本知重子〕

● 2カ月外国で暮らしてきました。前半はフランスで、主として南フランスのファーブルの故地と申しますか、アビニヨン、オランジエ、セリニアンの三角地帯のブドウ畑をウロウロ歩きまわり、今も残るアルマスに感激し、ファーブル博物館では館長のテオツキーさんの御厚意でファーブルの描いたきのこの水彩画数百点を見せていただきたのは、まさに眼福を得たと申せましょう。（なお、フランスの宿はすべてユースホステル又は駅前旅館で、一泊朝食付き1,500円以下でした。）

次に、一週間日本に戻って、ネパールに出かけてヒマラヤトレッキングしてしまいました。75歳過ぎてからととておいたアンナブルナ山塊に出かけました。まだ、2歳早いのですが、5,400mのトロン峰は高山病で越え兼ね、アンナブルナベースキャンプ4,200mまで行ってきました まあ、旧知のシェルバにオールデストトレッカとお



だてられて歩いたようなものでした。最近ヒマラヤが汚れているとか、日本人がその犯人みたいなことが新聞にでてきますが、どうも嘘みたい。第一日本人は、片道5日行程以遠には殆ど姿を見せないこと、トレッキングコースは、私が7年連続してボランティアで行っている利尻山よりもゴミがない（特にタバコの吸い殻とトイレットペーパー）こと。私は結論づけました。ヒマラヤは、日本人が長期休暇はとれない社会機構だから、汚れていないのだと。なお、ヨーロッパ人には、お花つみやキジうちの悪習はないようです。〔宮本敬之助〕

● 長野では、自然観察インストラクター制度が発足し、だんだんと組織化が進んでいます。力はありませんが、私なりに協力させてもらっています。〔村上和彦〕

● 隣の広場の定点観測でもしようかと思っています。そこではオオイヌノフグリが優占種であるのに対して、ウチの庭ではタチイヌノフグリしか見あたりません。少し不思議だなと感じています。また、近くの池では、去年までいなかったが、ごく数少ないはずのハシビロガモが今年は大量にいるなどの変化が起きているのも気になりますし、その付近の湿地がおそらく未調査のまま、畑地化されていくのも気になっています。やりたいことがいっぱいあるのに、足元に3才の子がまわりついて、ちょっと…というのが近況です。〔？〕

● 毎年3～4月は、ヤナギの花を見て楽しんでいます。尾張地方で見られる18種類（変種と多くある雑種を含む）について、同一種でも個体差があり、またその年の気象によっても違うが、花の最盛期はおよそ次のとおりであることを知りました。

3月上：フリソデヤナギ

3月中：ネコヤナギ・クロヤナギ・キヌヤナギ・ミヤコヤナギ・コリヤナギ

3月下：ナガバカワヤナギ・オノエヤナギ・キツネヤマギ・オオキツネヤナギ・バッコヤナギ・イヌコリヤナギ・シダレヤナギ

4月上：ジャヤナギ・タチヤナギ・ウンリュウヤナギ

4月中：コゴメヤナギ

4月下：マルバヤナギ

（順不同。—— 変種、----- 雜種）

〔佐藤徳次〕

### ☆編集後記☆

★ まとまった雨もなく、陽射しの強い毎日が続いています。3日ほど前、一宮市の北を流れている木曽川の本流を見に行きました。「まさか！」と思うほどの水の量でした。節水を呼びかけた回覧板も回っていました。

雑木林の木たちは、根はちゃんと地下水脈まで届いているのでしょうか。

★ 協議会ニュースの発行が大幅に遅れ、ご迷惑・ご心配をおかけしてすみませんでした。事情をなんとか克服して、やっと発行に漕ぎ着けました。「何を今ごろ！」とか「まだ、あったの？」などということは、なしにして、ここは円満に「まあまあ」ということで、今後ともご協力をお願いします。

★ 次回の発行は8月末です。「私の自然」関連の原稿も、どしどしあ送りください。

★原稿送付先  
編集部会



〒491-02 一宮市奥町内込47-4  
伏屋光信 ☎0586-61-4132

